

FUNERAL INFORMATION

葬儀情報紙

2021
July

7

Ceremony Support

“いざ”という時の安心のために～はと倶楽部 会員募集中!!

この情報紙に記載されている内容に関しましては、地域の習慣・風習などにより異なる場合があります

1885年創業の信頼と実績

善光寺の鐘が聴こえる

日野岩葬送会館

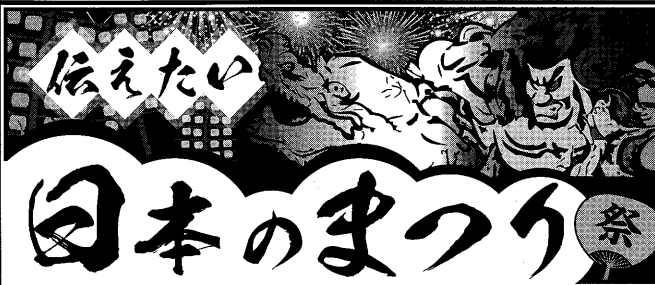
想樹の杜

そうじゆのもり

～葬儀・法事の御相談・御依頼は～

026-232-0012

長野市箱清水2-26-14



那智の火祭り

和歌山県／那智勝浦町

日本のまつりの多くで、「火」は重要な役割を担います。なかでも有名なのは、熊野那智大社の例大祭である「那智の火祭り」。別名を「扇祭り」といい、巨大な扇おうぎ神輿なみまつと松明が競演する勇壮なまつりです。

世界遺産にも登録された熊野三山のひとつ熊野那智大社は、神武天皇にゆかりがあるとされる那智大滝をご神体とする神社です。始めは、滝を神とする修験者たちの祈りの場所でしたが、317(仁徳天皇五)年に、滝から500mほど離れた現在の場所に社殿を建て、広く信仰を集めるようになりました。

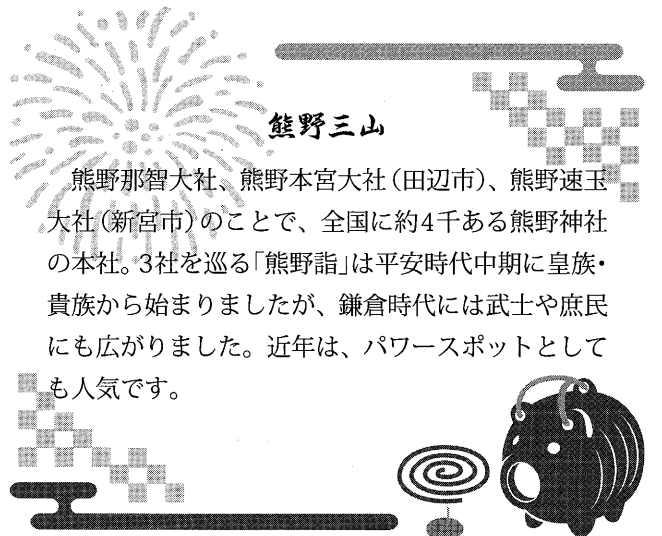
那智の火祭りは、年に一度、神々がこの社殿から滝まで里帰りをする儀式です。まつり当日は境内で

でんがくまい
田楽舞などが奉納された後、滝の姿を模したといわれる12体の扇神輿(高さ6mほどの板に赤い絹緞子を張り、扇などの飾りをつけたもの)が社殿を出て、参道を通って大滝へと渡御します。

一方、滝の側からは12本の大松明が出発して、急傾斜の石段を上り下りしながら、扇神輿が通る道を浄めます。大松明の重さは約50kg。屈強な若者でも、軽々と持てるものではありません。しかも、火の粉が全身に降りかかります。火の粉を消すための水も、その熱さですぐに湯気となって立ち上ります。

こうして若衆が担ぐ大松明に守られ、12体の扇神輿は無事、滝へと到着します。扇神輿は滝=水。大松明は火。水は生命の根源であり、火は活力を表します。もともとは儀式だった水と火のまつりは、参加する人だけでなく、観る人も元気づけてくれるまつりです。

那智の火祭りは毎年7月14日の開催。昨年はコロナ禍で縮小されましたが、その勇壮な姿をいつか目にしたいものです。



熊野三山

熊野那智大社、熊野本宮大社(田辺市)、熊野速玉大社(新宮市)のことで、全国に約4千ある熊野神社の本社。3社を巡る「熊野詣」は平安時代中期に皇族・貴族から始まりましたが、鎌倉時代には武士や庶民にも広がりました。近年は、パワースポットとしても人気です。



神の宿る御神体であるとされていたため、平清盛が「神の島」を足で踏むことがないようにと、海の上に社を建てさせたといわれています。瀬戸内海の潮の満ち引きによっても風景の変化が楽しめる、類い稀な観光地なのです。

● 大鳥居の秘密。

「厳島神社」のシンボルである大鳥居。実は海にただ置かれているだけの建築様式であることをご存知でしょうか。高さ16m、棟の長さ24m、重量は約60tという木造鳥居としては国内最大級の大きさを誇る建造物が、自らの重みだけで建っているというのです。波や嵐で倒れないように、鳥居の屋根の真下には、箱型の島木があり、この島木に約7t分の石を入れて重しにしているという訳なのです。干潮時にはぜひ、鳥居まで歩いて行って、その足元までを確認してみてください。

● 平安文化を感じる「寝殿造り」。

大鳥居を眺めた後は、平安時代から旅人たちを見守ってきた「厳島神社」を肌で感じましょう。日本の伝統と歴史を物語る寝殿造りの社殿は圧巻。さらに、神秘的な朱塗りの柱が連なり華やかな表情を映し出す東廻廊は、社殿と海と大鳥居を一度に望めることができる境内屈指のビュースポットです。まるで迷路のような長い回廊を、美しい建物と壮大な景色を楽しみながらお散歩気分に進んでください。

● 本殿参拝後は西回廊へ。

東回廊を抜けると、海の守り神とも呼ばれる三女神が祀られている本殿へ。本殿、拝殿は通常参拝の場合に入ることができませんので、手前にある賽銭箱の前でしっかりとお参りをしましょう。そして本殿を抜けて、西回廊へ足を進めると目に飛び込んでくるのが急勾配の「反橋」と呼ばれる丸い橋。この橋は日本にある重要文化財指定の橋の中でも最も古いもので、現在は残念ながら立ち入り禁止ですが一見の価値あります。さらに先にある「能舞台」も日本で5箇所しかない重要文化財の舞台のひとつ。他の舞台とは異なり海上に浮かぶその珍しさも唯一無二の特徴です。こちらも立ち入ることはできませんが、西回廊から眺めることができます。

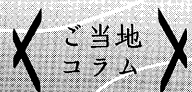
訪れた人にしか分からない、厳かで神聖な空気感…。誰もが一度は行ってみたいと思う「神社仏閣」をご紹介します。心洗われる歴史、心癒される自然、そしてその地にゆかりの深い名産品などを知って、まずはここで旅気分を味わってみませんか。第7回目は「神に齋く島」という神聖な語源を持つ広島県の「厳島神社」。海にそびえ立つ朱色の大鳥居はもちろん、幻想的な景観と建築美に圧倒される日本屈指の景勝地。宮城の松島、京都の天橋立と並ぶ「日本三景」のひとつ「厳島神社」をご案内します。

● 自然と調和する美しい「厳島神社」。

通称「安芸の宮島」として親しまれている広島県の小さな島「厳島」。豊かな自然と、海上に建ち並ぶ「厳島神社」の美しい建築物群とのコントラストが素晴らしく、独創的な景観を作り上げています。中でも、海に浮かぶ朱色の大きな鳥居は宮島のシンボリックな役割を果たし、浄化や運氣アップ、海上交通安全などのご利益があるとされています。

● 「神の島」ならではの風景。

「厳島神社」の歴史は古く、創建は1400年以上前の飛鳥時代の推古天皇によるもの。そして現在の「厳島神社」の原型となる社殿群は平安時代の後期、時の権力者である平清盛の命により造営されました。境内は遠浅の浜にあり、干潮時には大鳥居まで歩いていくことが可能。そして満潮時は一転、大鳥居はもとより社殿や回廊までが海に浮かんでいるかのような幻想的な景色が広がります。これは、古来から宮島全体が



～宮島なら、お腹も心も大満足。～

広島市内からフェリーで約45分、宮島口からなら約10分で行き来ができるという利便性の高さも宮島の魅力です。また、宮島に到着するとすぐに可愛い鹿たちがお出迎えしてくれます。人にとっても良く慣れているので写真撮影などの交流もおすすめですが、紙などは容赦なく食べてしまうのでくれぐれもご注意を。さらに、フェリー乗り場から「厳島神社」までの間には広島の美味しいものがすべて揃うといっても過言ではない「表参道商店街」があります。牡蠣、もみじ饅頭、あなご飯、広島風お好み焼きといった名物料理店はもちろん、最近話題の「揚げもみじ」を熱々のまま食べ歩きできるのも宮島ならではの、歴史探求と併せてお店探検もぜひお楽しみください。

くらしのなかで 脳トレに チャレンジ!



おじいちゃん

定年退職をきっかけに、心身の健康づくりに目覚めた65歳。最近では脳トレに一生懸命。



あかりちゃん

小学6年生の元気な女の子。ちょっと口うるさいけれど、おじいちゃんのことが大好き。

【伏せ字言葉で遊ぼう】



う〜ん。これは何だろう？



おじいちゃん、何をしているの？



伏せ字のクイズを解いているんだよ。脳のトレーニングになるんだ。



伏せ字のクイズって、四字熟語とかでどこかの文字が隠されているやつだよな？ どれどれ？



これだよ。「〇〇引〇」って何だっけ？万有引力かなと思ったけど、ヒントは「ことわざ」だから違うよな。



何言ってるのよ。こんなの「我田引水」に決まってるでしょ。



ああ、そうか！最近、言葉が出てこないんだよなあ。



おじいちゃん、しっかりしてよ。まだまだ元気でもらわないと。



あかりはやさしいなあ。



じゃあ、私が問題をつくってあげるね。おじいちゃん、この問題分かる？ みんな歴史上の人物よ。

- ①高倉 ○
- ②徳川家○
- ③浅井○政
- ④安○と厨子王



徳川家康と浅井長政だろ。安寿と厨子王は歴史上の人物っていえるかな？



そういう細かいことはいいのよ。最初の一人は？



う〜ん、高倉健さんは歴史に残る人だけだ...



ピンポーン、正解です。で、伏せ字のところを上から読んでみて。



えーっと、「健」「康」「長」「寿」。



そうよ。おじいちゃんには、ずっと健康長寿でいてほしいんだからね。



…(涙)。じゃあ、おじいちゃんも問題をつくってあげよう。昔話や童話のタイトルだよ。

- ①〇〇とキリギリス
- ②鶴の恩〇えし
- ③アリババと40人の〇〇ぞく



えーっと、「あり」「が」「とう」？



そうだよ(照)



何よ。もっと素直に、ありがとうって言えばいいのに。



「夢の治療」が医療の枠組みをも変える - 再生医療 -

このところ、耳にすることが多くなってきた「再生医療」。後天的・先天的問わず、怪我や病気などにより損なわれた体の組織を正常な機能を持った状態に再生をさせるもので、本人または他人の細胞や組織を培養することにより実現する医療です。

残念ながら人の指は、なくなってしまうえばトカゲの尻尾のように生えてきません。しかし擦りむいた皮膚は、深く大きな傷ではないかぎりそれほど時間をかけずとも傷跡もなく「再生」します。そういった人間にそもそも備わっている力を活用するのが再生医療なのです。

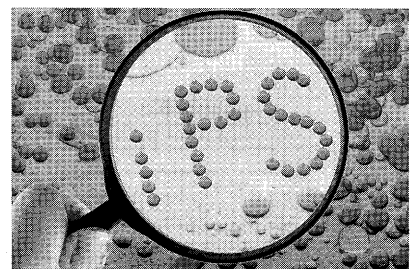
超最新医療というイメージがありますが、広義において再生医療の先駆けであると言えるのが骨髄移植。白血病など血液の病気により正常な血液をつくれなくなった骨髄に、ドナーによる正常な造血幹細胞を移植するものです。ドナーの出現を待ちわびている患者が多い一方で、白血球の型が合うのは血縁間であっても

30%程度、非血縁者つまりドナーとの間では数百から数万分の一の確率。それに加え、ドナー側は骨髄を採取するのにも全身麻酔、そして入院が必要となり、負担が大きいのが現状。

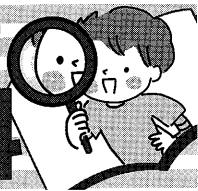
ではもし「簡単に、そして、拒絶反応の少ない造血幹細胞を作り出すことができたなら」どうでしょう。これがこれからの再生医療の仕事です。

再生医療の中でも特に注目の的となっている「幹細胞」、このうちの多様性幹細胞といわれるものの代表が2012年に日本人のノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥氏につくったiPS細胞です。なんと皮膚細胞から作製しているにもかかわらず、何十兆個もの細胞からなる私たち人間の「始まり」である受精卵のように、体のあらゆる組織をつくる細胞へと成長することのできる万能細胞なのです。「夢の細胞」として、ノーベル賞を受賞するのも納得ですね。

一度損なわれれば回復の見込みがなかった機能を再生できるようになったり、また治療後に利用機器や医療機材に頼る必要のない「根治治療」が可能であるため大きな期待が寄せられる再生医療。「医療」それ自体の枠組みすら変える研究が今まさに進められています。



あれこれ大百科



お盆の由来

一般的によく使われるお盆という言葉は実は略語で、正式名称は「盂蘭盆会」と言います。盂蘭盆会とは、先祖を供養する仏教行事のことであり、現在も多くのご家庭でお盆に法要が行われますが、それは盂蘭盆経の説話に起因する仏教的背景があると考えられています。その説話とは、お釈迦様の弟子が旧暦の7月15日に多くの僧にお布施をし、餓鬼道にいた母親を供養したことで、極楽往生させることができたというもの。この説話に由来し、先祖を旧暦の7月15日に供養する盂蘭盆会が一般大衆にも広く受け入れられ、その習わしが今も継承されているのです。

現在のお盆のスタイル

お盆には「先祖があの世界から帰ってくる」というのが周知の事実。しかし本来、このような考え方は仏教にはありません。実は日本には仏教の考え方が入ってくる以前から、旧暦7月頃に先祖の霊が帰ってくるという思想があり、各地で鎮魂のための「みたま祭」や「精霊祭」が開催されていたのです。このような考え方と仏教の盂蘭盆会が徐々に融合し、お盆にはご先祖様が帰ってき

て法要やお墓参りをするといった、現在のお盆の形になったのです。

迎え火、送り火とは？

お盆の迎え火とは、先祖の霊が迷わず家に帰ってこれるように焚き、送り火とはあの世界に迷わず帰ることができるように焚く火のことです。昔はお墓や菩提寺に家族全員で提灯を持って行き、お墓の前で提灯に火を入れて持ち帰り、仏壇に移すという流れを迎え火とし、逆に仏壇の火を提灯に移し、お墓や菩提寺で提灯の火を消して、先祖の霊を送り出すというのが送り火の流れでした。しかし現在は家の形態や核家族化に伴い、迎え火・送り火も簡素化されてきています。

お盆の日にちはいつ？

お盆の日は地域により異なりますが、多くは7月13日～7月16日、または8月13日～8月16日であるのが一般的です。迎え火の日としては、7月でも8月でもお盆初日の13日の夕方、もしくは前日の12日の夕方が多いようです。そして、送り火の日は7月でも8月でも16日の午後、なかでも夕方に行われることが多いようです。



ひのいわ葬祭

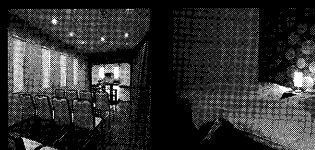
葬儀
の

事前相談 無料

後悔しないお別れのために、ひのいわ葬祭ではひとりでも多くの方に事前相談をおこなっています。いざという時の準備をしっかりと考えてみませんか。

家族葬や親しい身内だけのコンパクト葬にも対応しております。

創業135余年の信頼と実績



日野岩葬送会館

想樹の杜

そうじゆのもり

会員制の特別割引サービス



Ceremony Support

はと倶楽部

入会金10,000円

年会費無料



通夜 葬儀 法事

365日

24時間受付

いつでも対応いたします

0120-122-866

〒380-0801 長野市箱清水2-26-14



送迎バス完備

hinoiwa.com

ひのいわ葬祭 検索

